

# あたらしい出会い

赤澤 もとめ

「あたらしい」の連想で先ず小学校の教諭に聞いてみた。「あたらしい」子を受持った時先生はどんな

気持ちになるのだろうか。先ず「わくわく」する、と。どんな子でも皆可愛い、まるで我が子のようである。だから叱ることもある。叱られても子どもたちは受持ちの先生を慕ってくる。子どもが叱られても尚母親に慕ってくるようだと話していた。小学校教諭をしていた母は教諭としての役割をしながら、母親役割を重ねて我が子の成長発達を見守って

いたのだということ改めて想いおこさせてくれた。

この「あたらしい」を現れたばかりでまだあまり時を経ない状態というような解釈をしてゆくこととして考えてみたい。

人は「あたらしい」ことがらに触れようとする時は「わくわく」する気持ちになるだろうと思う。兎にも角にも「あたらしい」ことには興味を示す。それまでに知り得たことからではないから、たとえ身

に危険がさまっていることさえ知らず気にもせず飛びついてゆく。因みに子どもの行動をみていると、小さな隙間があれば入ってゆく。何があるのだろうか、確かめに入るのか、入れるのかなと確かめるのか、そこに何かあれば手で触ってみる。「冷たい」「熱い」「痛い」と思わず手を引つ込める。入ったところから出られない、どうしようと思いを求め、助けのないときもある。あれこれ考える。考える間があればよい。そうこうしているうちに入ったところから出られほっとしている。

或はぐずっている子に「ここにいろよ」との声をかける。ぐずっていた子は一瞬聞き耳をたてる、どこから聞えるか、誰の声かと考え、母の声かとわかる。生まれる前から聴きなれた声なんだ。近くに母がいると納得しぐずるのをやめる。とはよく母が話していた。こうして次への挑戦が始まり、くりかえされ行動範囲が広がってゆく。「あたらしい」ことを考えて前進することがあたりまえではないか。

困難に出会った時は直感的に考える。困難という壁を壊して進むか、壁を乗り越えるか右か左かへ迂回して前進するかして後戻りは出来ないのだと考える。考えて笑って前進するか、泣いて前進するかはその人の選択にある。人が小さい時は泣くことで自己主張し人の助けを得て納得の援助が得られればこりとし、さもなければ尚自己主張を強調してゆく時期もある。そして「あたらしい」ことを理解し納得し価値判断を学び行動が決まってゆくのである。

人の行動は人夫々に異なっているが、人として生まれる前からの環境による影響が大きいことは多く語られているところである。生まれてくる段階での影響の一つに関心の高い要因はストレスであるという。ストレスはどの発達段階においても影響を及ぼすことは知られている。ストレスは個人差があること、同一個人でも時と場合によっても異なってくる。従来から、いのちの発達途上においていわゆる

胎教の重要性が力説されてきたことが理解されるのである。

こうして「あたらしい」こととしてのいのちの出発点に出会う。この出会いは常に「あたらしい」出会いなのである。そして最大に緊張の出会いであり「あたらしい」いのちを愛でてゆくののである。この瞬間から「あたらしい」いのちは、後天的条件如何によって強く影響を受け、思いがけない方向に変わってゆきやすいのである。後天的条件を如何様に整えてゆくかは人それぞれであるが、発達してゆく子も個々に異なつて生育をしてゆく。子のゆく方向を見守り、愛で、子の持った能力を見極め引き出す目、眼を持つことは「あたらしい」ことに挑戦してゆける力量を引き出すことになる。

この力量を養うには生まれた時からの学びによると言える。「あたらしい」ことに興味をもつて向かつてゆくことにほかならない。生まれる瞬間に出会える機会に恵まれたのは外ならぬ母の導き故であ

る。自分の「みち」を自分で選べる道しるべを示す反面、どう選んでゆくかを静眼してゆくことの大切さを背中に込めていたように思う。

生まれる瞬間から関わるということは、育児の出発点というまさに「あたらしい」ことに出会う瞬間である。「あたらしい」ということを考えるにつれ、如何様にも影響を受けて発達してゆく子に対しての関わり的重要性を痛感する。影響の大きさを思う時、やさしく抱きしめてくれる「あたたかい手」がある。「あたらしい」ことを発見した時、珍しい花を見つけた時、咲かせた時、あらゆる時に抱きしめてくれる手のあたたかさに触れる抱かれた時の子の表情のなんとおだやかなことか。

今日、「忙しい」という生活の中でゆったり抱きしめる時間を逃してきているのではないだろうか。「あたらしい」いのちの出会いに立ち合うたびに、



いのちを愛でることのできる人に成長してゆくであ  
ろうとひらめく。そして手のぬくもりを与え、感じ  
あい、抱きしめる時をいかに創り出してゆくかが今  
問われている課題であると。

堅い道の隙間から苔が、草花が風とたわむれお陽

さまと語りあっている。ほんの少し足を止め、抱  
きしめる時を探してほくほくしたいものである。  
「あたらしい」ことに出会える今を大切に、日々転  
機できる自分探しをしてゆきたいと願っている。

(助産師)

## 子どもが生きるクラスに向けて

林 明日香

新しい年度となる時期は、前年度の総括と新年度  
の準備で仕事が殺到するのであるが、なんだか春う

らかな気候に助けられ、心機一転、新たな気持ち  
にさせられる。日常の当たり前になっっていることを